

**Citation:** Al-Harasi S, Ashley PF, Moles DR, Parekh S, Walters V. Hypnosis for children undergoing dental treatment. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2010, Issue 8. Art. No.: CD007154. DOI: 10.1002/14651858.CD007154.pub2

**CRG名:** Oral Health

### [最新版\(英語版\)はこちら](#)

**英語版最終改訂年月:** 14 June 2010

**Clib issue No.;** N/U: 2010 Issue 8; New

**背景:** 小児をうまく扱うことは、多くの歯科医師が直面する課題である。tell-show-do法や正の強化による技法、モデリング法、催眠法のように、非薬理学的手法の多くは小児の不安や行動上の問題に対処するために発展してきた。催眠法の利用は一般に見過ごされやすい領域であり、そのためにこのレビューが必要なのである。

**目的:** このシステマティック・レビューは、「歯科治療を成功裏に終えるために、治療を受ける小児の行動管理に用いる催眠法(鎮静法あり、または鎮静法なし)の効果は何か」という質問に答えようとするものである。帰無仮説は「小児の歯科治療のアウトカムに催眠法は効果がない」である。

**検索戦略:** Cochrane Oral Health GroupのTrials Register, CENTRAL, MEDLINE (OVID), EMBASE (OVID), and PsycINFOを検索した。言語を制限せずに、統制語やフリーテキストを用いて、電子情報検索や手作業での検索を実施した。最後に検索したのは2010年6月11日であった。

**選択基準:** 全ての小児と16歳までの若年者。局所麻酔あり、または局所麻酔なしの簡単な修復治療、単純抜歯や歯科外傷の管理のような歯科治療を受けている小児。

**データ収集と分析:** 方法や参加者、介入、アウトカム測定、結果に関する情報を、2名のレビューアが独立で二重に抽出した。ランダム化と撤回の詳細について臨床試験の著者にコンタクトがとられ、質の評価が行われた。ランダム化比較試験(RCTs)の方法論的な質は、the Cochrane Handbook for Systematic Reviews of Interventions 5.0.2.に記載されている基準で評価された。

**主な結果:** 3つのRCT(69名の参加者)のみが包含基準を満たした。統計解析とメタアナリシスは研究の数が十分でなかったため、できなかった。

**レビューアの結論:** 小児歯科領域において、催眠法の利用効果を示す多くの事例報告があるが、このレビューの包含基準を満たした3つの研究において、催眠法の有益な効果を示すほどのエビデンスはまだ認められていない。

(翻訳 大山 篤・監訳 豊島義博; JCOHR)

翻訳公開日: 2011年12月16日

**ご注意:** この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年12回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。